

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 向洋 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

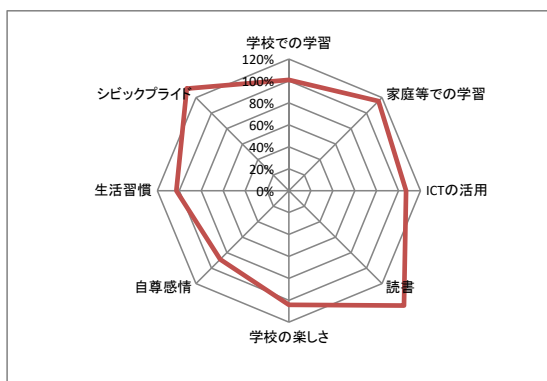
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	言葉の特徴や使い方に関する事項、話すこと聞くことについては、よく理解できていた。その一方で、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと」「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること」等、我が国の言語文化に関する事項については課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかをみる問題。	
	努力が必要な問題	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述をもとに捉え、要旨を把握することができているかどうかをみる問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	空間図形や二等辺三角形等について答える「図形」の問題についてはよく理解できていた。その一方で「四分位範囲の理解」や「複数の集団のデータ分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」等データの読み取りの問題については課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかをみる問題。	
	努力が必要な問題	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題。	
英語	全体的な傾向や特徴など	日常的な話題について、必要な情報を聞き取ること等、「聞くこと」については、よく理解できていた。その一方で、「社会的な話題について、自分の考えとその理由を記入することや「相手に依頼する表現を正確に記入する」等の「書くこと」については課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかをみる問題。	
	努力が必要な問題	英単語や文法事項等を正しく用いて、文を書く問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ○「読書が好きか」という問に対し、82.5%の生徒が肯定的な回答をしており、全国平均を上回っている。活字を読む習慣が身につけていると考えられる。 ○「総合的な学習」の時間に関する問に対し、課題探究的な学習をしていると回答した生徒が90%に上り、全国平均を上回っている。第一学年次より系統的に学習を積み上げてきたことが奏効していると考えられる。 ○「先生は良いところを認めてくれているか」という問に対する回答は、全国平均と大差ないが、「自分には良いところがある」と回答した生徒は、全国平均を下回っていた。 ○家庭学習について肯定的な回答を示す生徒が全国平均をこえる一方で、「学習した内容の見直し」については、全国平均を下回っていた。 ○「地域行事への参加」や「地域への貢献」についての問に対し、肯定的な回答をした生徒が、全国平均を大きく上回っていた。シビックプライドが醸成されていることが感じられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語：スピーチ学習等を取り入れ、聞き手の立場に立った効果的な話し方の工夫や自分の考えを伝えるために必要な情報を引用する等の取組が重要である。
 数学：確認テストで既習事項を復習しながら、基礎的・基本的な知識・技能を高めていく。問題の解き方や考え方の発表等を通して、思考力・判断力・表現力を伸ばす。
 英語：スピーチやプレゼンテーション、英作文等、自分の考えを英語で表現することにより力を入れていく必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習に対して肯定的な回答は多いものの、復習や見直しには時間が割けていない状況がある。向洋ノートでの学習は習慣づいているので、今後は内容（復習や見直し）についてより重点的に指導をしていきたい。
 ○計算問題や英単語などの基礎的な学習内容の補充学習・学力向上コンクールを実施し、個人・学級集団の学力向上と学習意欲の高揚を目指す。